

## 第5章

# 多摩市の現在から未来へ

市制施行から50年。街の姿が刻々と変化していく中、現在の多摩市は再び大きな転換期を迎えています。多摩ニュータウンは再生期にさしかかり、次の時代への一歩を踏み出そうとしています。

ここでは、多摩市の現在の姿を紹介しつつ、未来へ向けてこれからの多摩市を考えてみましょう。

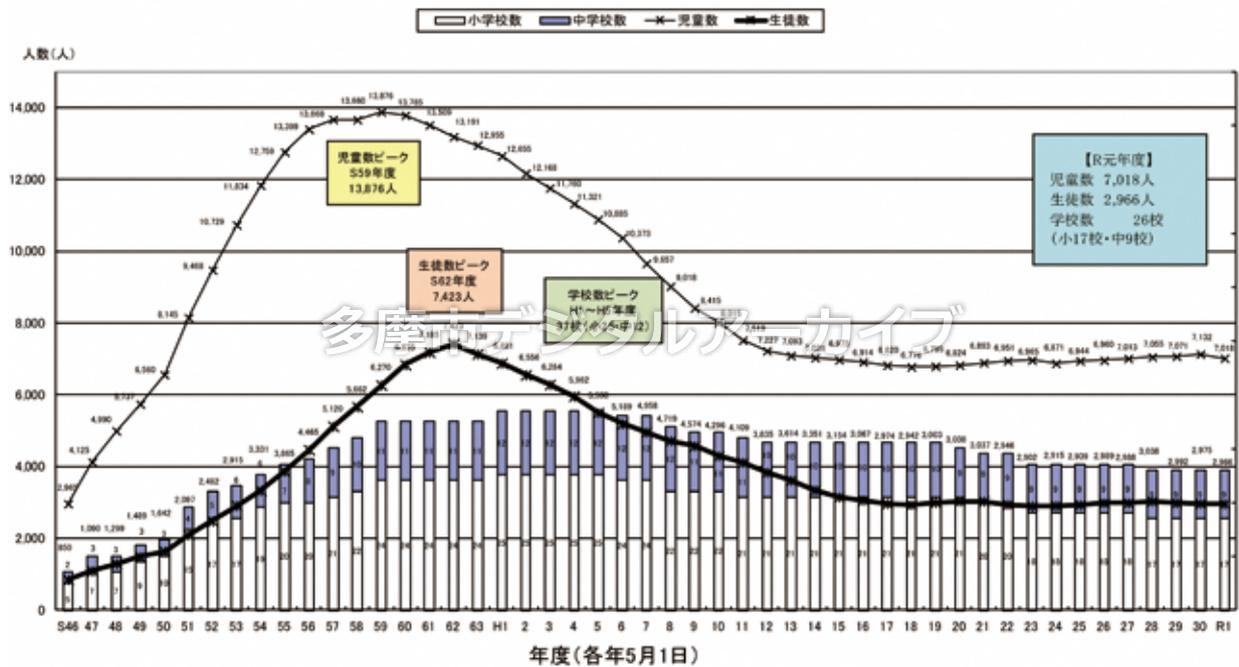


建て替え前の諏訪二丁目住宅 2010(平成22)年4月

## 地域の変化と公共施設①学校の統廃合

多摩市の小中学校は、市制施行前には5校（多摩第一小、多摩第二小、多摩第三小、竜ヶ峰小、多摩中）、1971（昭和46）年の市制施行時には7校（児童・生徒数3,815人）でしたが、多摩ニュータウン開発に伴う入居に伴って児童・生徒数が急速に増加したことを受けて、毎年のように学校を設置し、特に1976（昭和51）年は、1年で6校も開校するなど、短期間で爆発的に増加しました。大松台小、鶴牧中を開校した1989（平成元）年度には、37校（小学校25校、中学校12校）となりました。児童数は1984（昭和59）年度の13,876人、生徒数は1987（昭和62）年度の7,423人がそれぞれピークであり、その後、市内のニュータウン開発が収束していったこともあり、児童数・生徒数は減少に転じていきました。

多摩市立小・中学校児童・生徒数、学校数の推移



### これまでの学校統合の経過

統合年度	統合前	統合後
平成6年度	中諏訪小学校・南諏訪小学校	諏訪小学校
平成8年度	南永山小学校・西永山小学校 東永山小学校・北永山小学校	瓜生小学校 永山小学校
平成9年度	西永山中学校・永山中学校	多摩永山中学校
平成11年度	南落合小学校・北落合小学校	東落合小学校
平成12年度	西落合中学校・東落合中学校	落合中学校
平成20年度	豊ヶ丘中学校・貝取中学校	青陵中学校
平成21年度	竜ヶ峰小学校・多摩第二小学校	多摩第二小学校
平成23年度	南豊ヶ丘小学校・南貝取小学校 北貝取小学校・北豊ヶ丘小学校	貝取小学校 豊ヶ丘小学校
平成28年度	西愛宕小学校・東愛宕小学校	愛和小学校

※東愛宕小学校は平成26年3月に閉校し、平成26年度から愛和小学校。西愛宕小学校は、平成28年度に愛和小学校と統合。

今後、さらに児童数・生徒数が減少していくことを見据え、1989（平成元）年度から「学区調査研究協議会」に、さらに学校の小規模化の課題が深刻化してきた2003（平成15）年からは「多摩市立学校の一定規模および適正配置等に関する審議会」に諮問し、答申を受けることで、全市的な通学区域の見直し、学校統合をおこなってきました。

1994（平成6）年度に、中諏訪小と南諏訪小を統合して、現在の諏訪小を開校したのを皮切りに、これまでに小学校15校、中学校6校を閉校し、新たに小学校7校、中学校3校を開校、2021（令和3）年現在は26校（小学校17校、中学校9校）となっています。

これまで地域の中に存在していた学校が閉校してしまうことは、子どもたちのみならず保護者や地域の皆さんにも大きな影響を及ぼすことになり、学校統合の決定に際しては、長時間にわたる地域説明会を開催したり、統合案に対するパブリックコメント、署名活動などを多数いただいた末、子どもたちの教育環境を最優先に考えてのやむを得ない結果として実現したものも少なくありません。

（多摩市企画政策部企画課）



#### 青陵中学校

2012(平成24)年

青陵中学校は2008(平成20)年4月に豊ヶ丘中学校と貝取中学校の統廃合によって開校した。開校当初は旧豊ヶ丘中学校の校舎を使用し、2010(平成22)年より改修工事を終えた旧貝取中学校の校舎に移転した。



諏訪小学校・諏訪中学校 2012(平成24)年

## 地域の変化と公共施設②跡地活用

1994(平成6)年から始まった学校統廃合により、一時期は37校にまで達していた学校数は、現時点で11校が統廃合され、26校となりました。学校の統廃合によって生じた学校跡地の活用方針については、市民委員会やパブリックコメント、市民フォーラムなど広く市民の意見を伺い、2009(平成21)年に「学校跡地施設の恒久活用方針」を策定しました。なお、現在の活用方針は、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」に引き継がれています。

廃校となった11の学校跡地の活用にあたっては、この方針に基づき、有効活用や機能転換を図っています。(多摩市企画政策部行政管理課)



東京医療学院大学 2018(平成30)年12月

旧南落合小学校(1999(平成11)年廃校)は、学校法人に貸し付けし、医療系の専門大学として活用している。



南豊ヶ丘フィールド

2015(平成27)年3月  
旧南豊ヶ丘小学校(2011(平成23)年廃校)は、民間事業者に貸し付けし、人工芝グラウンドと校舎を活用したクラブハウスが市民に利用されている。なお、災害時は防災避難所となる。



## 多摩市デジタルアーカイブ

**西永山福祉施設・永山三丁目都営住宅** 2020(令和2)年

旧西永山中学校(1997(平成9)年廃校)は、校庭側を社会福祉法人に貸し付けし、特別養護老人ホームの用地として活用している。また、校舎側は東京都に貸し付けし、都営住宅の建て替え用地として活用している。



## 多摩市デジタルアーカイブ

**多摩市立図書館(本館)** 2021(令和3)年9月

市役所に隣接していた多摩市立図書館本館は、2008(平成20)年に旧西落合中学校(2000(平成12)年廃校)に最小限の改修をおこない、移転し、暫定利用している。2023(令和5)年に多摩中央公園に多摩市立中央図書館として移転、開館を予定している。

## 東日本大震災と多摩市

2011（平成23）年3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖を震源としてマグニチュード9.0を観測した東日本大震災では、多摩市も震度5弱の揺れに襲われました。

15時00分には第1回災害対策本部会議を開催するとともに、市内の被害状況の確認や対応にあたりました。

全消防団員も参集し、受け持ち区域の情報収集活動・警戒活動・広報活動を実施しました。

公共交通機関の停止により各駅周辺の公共施設に集まった帰宅困難者等へ、毛布や非常食料を配布しました。

また、被災地へ支援物資の搬送や応援職員の派遣をおこないました。（多摩市総務部防災安全課）



**パルテノン多摩大ホールでの帰宅困難者受け入れ** 2011（平成23）年3月11日

パルテノン多摩では、多摩センター地区の震災による帰宅困難者766名を受け入れた。市内ではその他、関戸・一ノ宮コミュニティセンター、永山公民館、関戸公民館でも帰宅困難者を受け入れた。



**大震災発当日夜の多摩センター駅駅前**

2011（平成23）年3月11日

18時頃の様子。この時点では、京王相模原線も小田急多摩線も運行を見合わせており、駅前には帰宅できなくなった人々であふれていた。この日、多摩モノレールは16時頃から、京王電鉄は22時過ぎから、小田急電鉄は24時過ぎから運行を再開した。



**計画停電初日の聖蹟桜ヶ丘駅**

2011（平成23）年3月15日

3月15日より、多摩市域でも計画停電が始まった。写真は一ノ宮・関戸などの明かりが消えた聖蹟桜ヶ丘駅付近の様子。

## 多摩市非核平和都市宣言

多摩市は、この緑豊かな土地に生まれ育ち、あるいは全国各地から夢と希望を持った、多くの人たちが集まってできたまちです。私たちは、太陽の光あふれるこの多摩市で、穏やかな日々の生活を平和だと感じて暮らしています。

この暮らしのなかで、いつしか広島・長崎の記憶が薄れつつあり、世界には今もたくさんの核兵器が存在すると知りながら、平和は失われやすいことを忘れかけていました。

平成23年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に、私たちは多くのことを学びました。自然の力に対する謙虚さを忘れ、人間の科学技術を過信していたこと。安全と言われていた原子力発電所から、ひとたび事故が起これば大量の放射性物質が拡散され、大事に育て築いてきたものが、たちまち奪われうることを。

私たちは、人と人との絆を大切に、原子力に代わる、人と環境に優しいエネルギーを大事にしていきます。そして、戦争がなく、放射能被害のない平和な世界に向けて、みんなが笑顔で、多様ないのちがにぎわうまちを、多摩市から実現していきます。

現在、そして未来の子どもたちに戦争の悲劇と平和の大切さを伝え、他の都市とともに世界の人々と手をたずさえて、全ての核兵器の廃絶と平和な社会を求めるために、ここに多摩市が非核平和都市であることを宣言します。

### 多摩市非核平和都市宣言 2011(平成23)年11月1日制定

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故を機に、原子力に頼らない人と環境に優しいエネルギーを大事にするとともに、戦争がなく、放射能被害のない平和な世界の実現に向けて、非核平和都市宣言を制定した。



第39回せいせき桜まつり企画 2020年2月7日 於 多摩第一小学校

**浪江と多摩をつなぐ交流のつどい** 2020(令和2)年2月  
東日本大震災以降、「桜ヶ丘商店会連合会」が継続して復興支援をおこなう中で、福島県浪江町と多摩市の子どもたちの交流がおこなわれた。



### 那須海城祭 2015(平成27)年6月

那須高原海城中学校・高等学校は、東日本大震災で校舎と寮が被災したことから、2011(平成23)年6月より、旧豊ヶ丘中学校の校舎を授業に使用した。2017(平成29)年3月の閉校までの学校生活は、メディアに取り上げられ、人々の記憶に残ることになった。

## 進む団地再生

多摩ニュータウンは、第一次入居から50周年を迎え、特に諏訪・永山地区や愛宕地区をはじめとする入居時期の早い地区では、団地再生が課題となっています。

公的賃貸団地では一部の団地の建て替えが完了、あるいは進行しており、都営諏訪団地と都営愛宕団地の一部では、市内3か所の学校跡地などを活用して事業が進められています。



**諏訪二丁目住宅** 2011(平成23)年7月

建て替え前は5階建てでエレベーターは不設置。分譲団地であったものの、時間をかけて建て替えを実現した。

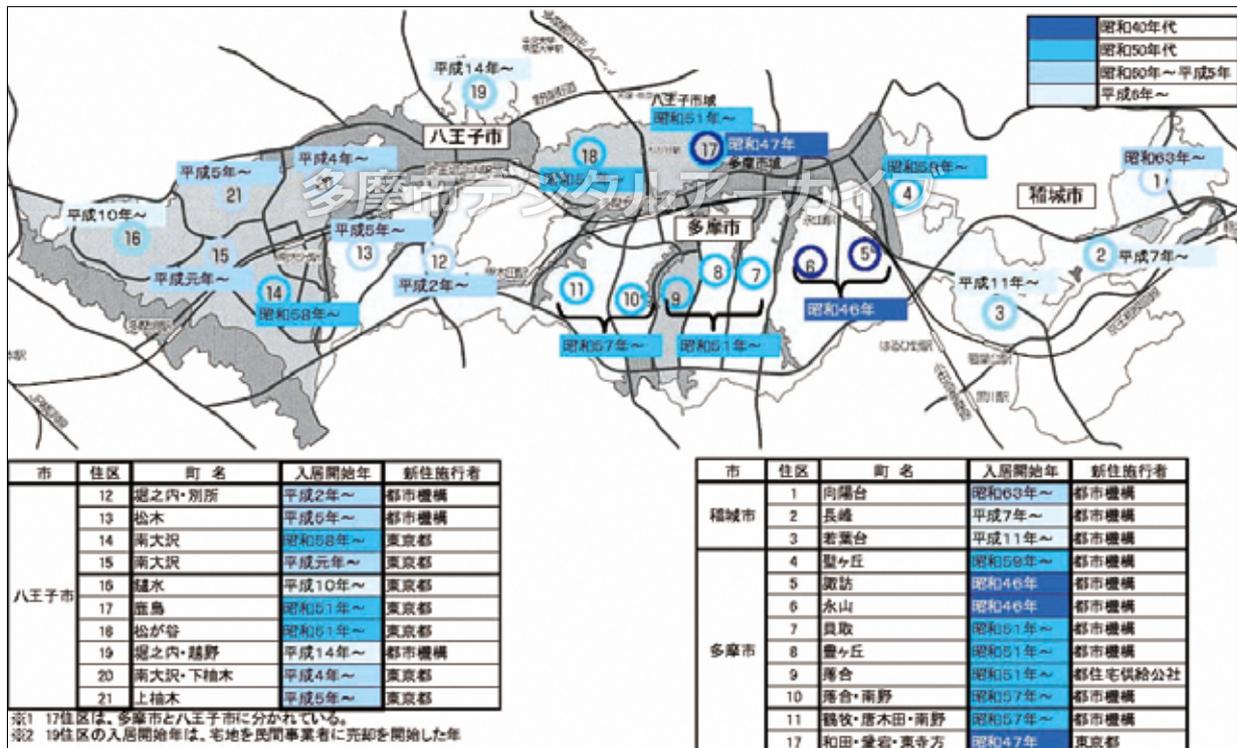


**建て替えで誕生したブリリア多摩ニュータウン** 2013(平成25)年10月

民間分譲マンションとして建て替えられた。11階建て、14階建てになり、元の住民が戻るだけでなく、多くの新しい世帯が転居してきた。

分譲団地についても、多摩ニュータウンで最初の建て替えが2013（平成25）年に諏訪二丁目住宅でおこなわれました。また、建て替えだけでなく、適切な管理による建物寿命の延伸や、改修によって建物の価値を向上させる再生を図っている団地もあります。

分譲団地は区分所有のため、運営や建て替え、改修には住民の合意形成が必要となります。多摩市では、「多摩市ニュータウン再生方針」や「多摩市第三次住宅マスタープラン」を策定し、東京都とも連携しながら、準備段階、検討段階、計画段階で支援をおこなうことにより、分譲団地の再生を進めています。（多摩市都市整備部都市計画課）



多摩ニュータウンを構成する各住区の入居開始時期



団地再生・ゆとり住宅地ゾーン(団地再生エリア)

多摩ニュータウン リ・デザイン諏訪・永山まちづくり計画で示した諏訪永山まちづくり団地再生・ゆとり住宅地ゾーンのイメージ図。



エステート鶴牧4・5住宅

外断熱改修で建物寿命・省エネ効果が大幅に向上した一例。

## 商業の変化

昭和の初め頃から、京王線関戸駅（現聖蹟桜ヶ丘駅）周辺などの既存市街地を中心に、商業地が形成されてきました。その後、多摩ニュータウンへの入居が始まると、最初に諏訪・永山地区の近隣センター内に商店街が開設し、西に向かって開発が進むとともに、各住区に次々と商店街が形成されていきました。街の中心となる駅周辺では、永山駅、多摩センター駅、唐木田駅の開発に伴い大規模商業施設がオープンし、また、幹線道路の整備・拡幅が進むに従い、沿道には飲食店や大型スーパーが進出してきました。



**聖蹟桜ヶ丘駅前**

1969(昭和44)年4月  
これからほどない同年5月、聖蹟桜ヶ丘駅は後ろへ50m移動し、高架となった。



**聖蹟桜ヶ丘駅前**

2017(平成29)年



**グリナード永山**

1983(昭和58)年5月

現在、聖蹟桜ヶ丘駅周辺では多摩川と一体となった街の整備が進められ、また、多摩センター駅周辺では公共施設の改修・再整備により、今後、街の姿が大きく変わってくることが予想されています。将来的には、南多摩尾根幹線道路の整備や多摩都市モノレールの延伸により域外からのアクセス向上なども見込まれており、魅力ある商業の展開が期待されます。(多摩市市民経済部経済観光課)



建設中の丘の上パティオ(左)と多摩そごう(右) 1992(平成4)年



丘の上パティオ(左)とココリア多摩センター(右) 2021(令和3)年

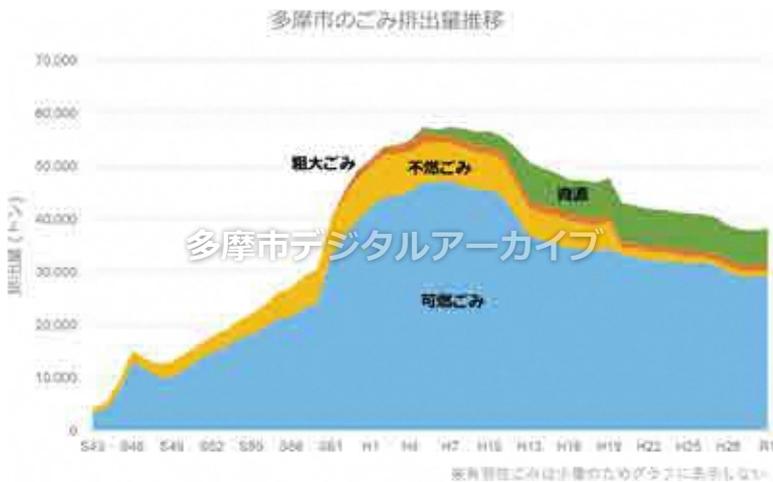
丘の上プラザ(イトーヨーカドー)  
1980(昭和55)年



## 多摩市を取り巻くごみ問題

50年間で大きく変わったことのひとつが「ごみ」ではないでしょうか。

町から市へ、その同時期にダストボックス収集が始まり、2000（平成12）年に廃止するまで30年間使われました。鉄のボックスを吊り上げて収集する光景は、大量生産、大量消費、大量廃棄の象徴のようでした。そして、ごみ処理施設が次々と作られていきました。



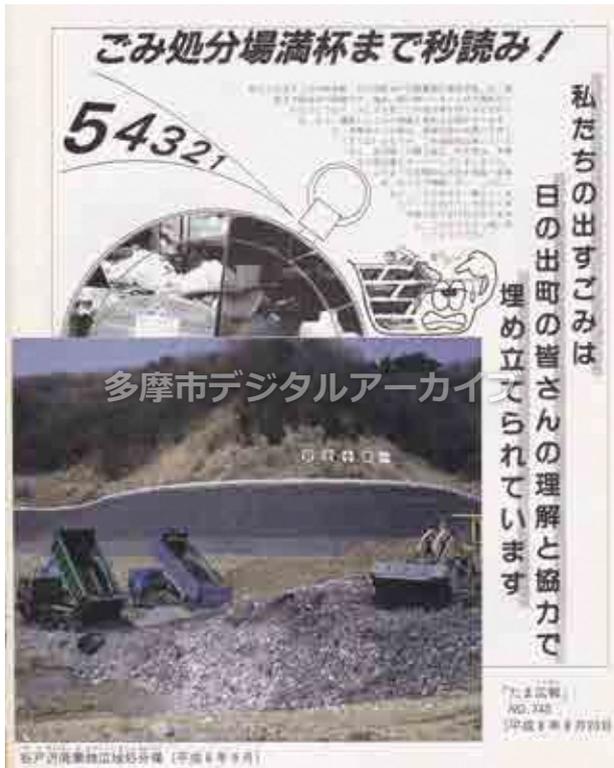
### 多摩市ごみ年表

1971(昭和46)年	市内全域でダストボックス方式によるごみ収集開始
1973(昭和48)年	多摩清掃工場が唐木田にできる
1981(昭和56)年	資源集団回収補助金制度を設ける
1983(昭和58)年	都市廃棄物処理管路施設ができる
1984(昭和59)年	有害性ごみの分別収集開始
1987(昭和62)年	粗大ごみ処理施設開設
1990(平成2)年	生ごみ堆肥化容器(コンポスト)購入補助金制度開始
1991(平成3)年	びん、缶、牛乳パックの収集開始
1993(平成5)年	多摩ニュータウン環境組合を3市(多摩、八王子、町田)共同で設立 多摩市リサイクル協力店制度開始
1994(平成6)年	粗大ごみの収集が有料になる 桜ヶ丘再利用センター開設 新聞・雑誌、ダンボール、古布の収集開始 「多摩市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例」施行
1998(平成10)年	多摩清掃工場のごみ焼却施設が更新され操業開始 ペットボトルの店頭回収開始
1999(平成11)年	エコプラザ多摩(多摩市資源化センター)開設
2000(平成12)年	ダストボックス方式によるごみ収集を廃止 ペットボトルの収集開始
2008(平成20)年	有料指定袋によるごみ収集開始、プラスチックの分別収集開始
2013(平成25)年	小型家電・金属類の収集開始
2015(平成27)年	草枝の受け入れ開始(エコプラザ多摩) 埋め立てゼロ、全てエコセメント原料へ

### 多摩市のごみ年表

ごみの分別は2分別から12分別へと増えていった。

1990年代になるとごみ量がピークとなり、西多摩郡日の出町にあったごみの最終処分場（谷戸沢処分場）が満杯になるというので、2つ目の処分場建設が計画されましたが、谷戸沢処分場の汚水漏れについて情報公開がなされず激しい反対運動が起き、多摩市民も大勢参加しました。当時、処分場の管理者が臼井千秋多摩市長だったことから、ごみに関わってきた多摩市の人々は大変心を痛め、とにかく「ごみを減らすこと」が大命題となりました。必死で市民協働を進め、ごみの総量は1995（平成7）年をピークに3割以上減少しました。しかし、現在もまだ多摩市は多摩地域26市の中ではごみ量が多い自治体です。今後は、二酸化炭素排出削減やプラスチックごみの削減といった視点からもさらなる施策や行動が求められています。（江川美穂子）



最終処分場の逼迫を訴えるたま広報 1998(平成10)年



建設中の二ツ塚廃棄物広域処分場 1998(平成10)年



2000(平成12)年  
ダストボックス収集廃止  
1998(平成10)年  
ごみステーションにあふれるごみ。

## 多摩市の商業

昭和30年代の聖蹟桜ヶ丘駅前には数件の店舗があるのみの、のどかな駅前風景で、車の通行もまばらな静かな街でした。1967（昭和42）年、桜ヶ丘住宅の開発以降、人口が増え、1969（昭和44）年には駅舎も高架化。駅前に京王ストア、現さくら通りに西友ストアがオープンし、一気に流通革命の波が押し寄せてきました。商店も結束し「多摩商業協同組合」を設立します。

川崎街道の道路整備後、商店も増えたため組合を解散し、駅東口に「中央商店会」、南側に「桜ヶ丘南口商店会」が発足し、競い合う体制になりました。1973（昭和48）年には聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター、ザ・スクエアショッピングセンターがオープン。その後、桜ヶ丘オーパショッピングセンター



聖蹟桜ヶ丘駅周辺の様子 2012(平成24)年8月



中央商店街 (左)1965~74年(昭和40年代)以降 (右)2017(平成29)年

北側から撮影したもの。森田商店の奥に多摩精肉店の看板が見える。奥に見えるオーシャンバーは、三楽オーシャンによって設置されたオーシャンウィスキーを飲めるバー。ここは以前、牛乳屋であった。



桜まつり

1986(昭和61)年4月

など大型施設がオープンします。個人商店との確執が生まれ、「大店法」（大規模小売店舗立地法）が施行。商工会に調整機関が設置されます。この頃から他地区との競争になり、商店街と大型店とがスクラムを組む桜ヶ丘商工会連合会ができ、現在に至っています。集客や他市との差別化のため、「せいせき多摩川花火大会」、「せいせき桜まつり」、「せいせき朝顔市」など地域を挙げたイベントを通年に開催して、街の活性化を図ってきました。

しかし、少子高齢化やインターネットなど生活様式の変化が商業活動に波及し、ここ10年、個人商店が減少する反面、ネット通販などが増加。買い物のスタイルが大きく変わってきました。聖蹟桜ヶ丘北口、西側には未開発地区があり、今後マンション開発などで大幅な人口増が見込まれています。多摩川を背に、南に丘陵地を抱える環境の良い聖蹟桜ヶ丘は、徐々に街の姿を変えていきます。（森田利夫）

聖ヶ丘の商店街広場の変化



2008(平成20)年8月



2012(平成24)年3月



2016(平成28)年7月

1984(昭和59)年3月、聖ヶ丘の街びらきとともに「いなげや」がオープンした。「いなげや」は2011(平成23)年3月に撤退。4月に「ユアーズ」が開店するものの、これも10月に閉店した。2年後の2013(平成25)年12月、「Big・A」(ビッグ・エー)が従来の建物の半分の広さで、生鮮食品の品数を絞込んだ小型スーパーとして開店した。UR都市機構は2014(平成26)年11月から建物半分の減築工事(取り壊し)をおこない、取り壊した部分をBig・A専用駐車場に造り替えた。

(参考)多摩市内の商店数・店舗面積

『商業統計調査報告』、『経済センサス活動調査報告』より



※2014年調査は、日本標準産業分類の改定および調査設計の変更に伴い、前回実施の数値とは接続しない。

## 多摩市の農業

農地面積は40.5ha（市域の約1.9%）で、うち生産緑地面積は27haとなっています。農家数は83戸、農業産出額約1億3,000万円で、農地面積・農家数ともに年々減少しています。

農地の多くは畑で、トマト・ジャガイモ・ナス・白菜・大根・ネギ・ホウレンソウ等々の多品目露地野菜栽培が中心ですが、梅・栗・柿・ブルーベリー・柑橘類等の果樹栽培や、アサガオ・花卉・野菜苗・椎茸栽培等もおこなわれています。



いきいき市の様子  
2020(令和2)年



いきいき市の様子  
2020(令和2)年

水田は4戸の農家で2haを耕作し、食料米の他、酒造好適米や古代米などを生産し、酒造好適米による農商工連携しての日本酒と、6次産業化による手作り味噌製造を手掛けています。

近年、アスパラガスの「採りっきり栽培®」やミニトマトの「ソバージュ栽培®」、椎茸の菌床栽培、体験型市民農園やもぎ取り観光農園の開設、ブドウ栽培など多様な取り組みが新たにおこなわれています。

市内の販売農家で生産された農産物は、共同直売所・学校給食・軒先販売・アンテナショップ店・東京南農業協同組合（JA）の直売所などに出荷・販売されています。市場出荷の農家も数戸あります。

なお、多くの農家はJAの生産者団体組織（5部会）の部会員で、その活動を通して多摩市の都市農業を支えています。（小暮和幸）



せいせき朝顔市の様子 2018(平成30)年



原峰のいずみ  
2020(令和2)年

友好都市である長野県富士見町との共同アンテナショップ  
Ponte(ポンテ)

2021(令和3)年  
多摩市の地場野菜だけでなく、富士見町の特産品販売や観光PRをおこなっている。



## 多摩市の観光

多摩センター地区には、世界でも広く愛されているハローキティと触れ合える「サンリオピューロランド」があり、外国人を含め多くの方が街を訪れています。このまちの資源を活かして、地区に立地する企業等と連携して「ハローキティにあえる街」を進め、夢のあるまちのイメージづくりに取り組んでいます。

また、多摩市は市民活動や企業連携が盛んであり、市民や企業・団体などが主体となって開催している「せいせきみらいフェスティバル」や「永山フェスティバル」、企業・団体などで組織される多摩センター地区連絡協議会が主体となって開催している「ハロウィンin多摩センター」や「多摩センターイルミネーション」など、四季折々のイベントが各地域で開催され、多くの市民が参加し、市内外からの



多摩よこやまの道案内 2015(平成27)年



サンリオキャラクターたちによるイルミネーションスペシャルパレード  
2016(平成28)年12月



ハロウィンin多摩センター  
2018(平成30)年10月

観光客でにぎわっています。

その他、市内に立地する企業などと連携して、人気キャラクターである「ラスカル」や「しまじろう」を活用した観光の取り組みも進めています。

また、日本一長い遊歩道や新日本歩く道紀行「歴史の道」100選に認定された「多摩よこやまの道」、市民団体などとの連携による各種ガイド・ウォーキングマップなど、地域資源の掘り起こしによる観光資源が多くあり、四季折々のイベント以外にも、年間を通して多くの人々が訪れています。

(多摩市市民経済部経済観光課)



せいせきみらいフェスティバル  
2018(平成30)年

### 多摩市内の観光マップ

左からせいせきおでかけMAP、遊歩道・よこやまの道ガイドマップ、多摩市観光マップ、多摩センタータウンガイド



ハローキティマンホール(汚水)  
2017(平成29)年11月



あらいぐまラスカルマンホール(雨水)  
2017(平成29)年11月

## 文学・美術作品

聖蹟桜ヶ丘駅周辺がモデル地といわれる映画「耳をすませば」については、上映から25年以上経過した現在でも、聖地として全国からファンが訪れる様子が見られ、アニメの持つ力を強く感じます。一方、地元の人たちや商店街では訪れるファンをおもてなしする取り組みが継続しておこなわれています。

市内にスタジオがある日本アニメーションとは地域活性化に関する連携協定を締結し、子ども向けの映画祭などの取り組みをおこなっています。

映画やドラマなど市内でおこなわれるロケ撮影については、市民によるフィルムコミッション「たまロケーションサービス」が市と協働して支援をおこなっています。パルテノン大通りや公園などニュータウンの街並みを背景とした撮影も多く、市内で年間150件ほどおこなわれています。

(多摩市市民経済部経済観光課)



あらいぐまラスカル



ロケ地の一例(プロムナード多摩中央)



ロケ地の一例(愛宕配水所と桜) 2012(平成24)年4月



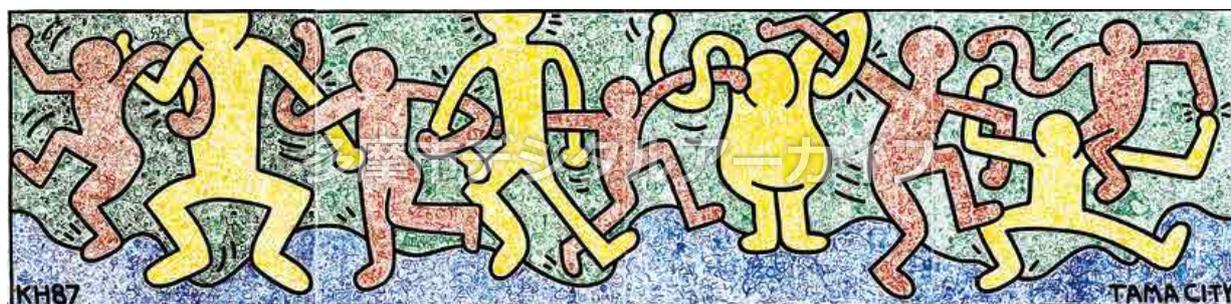
吉祥院の桜 戦前

豊ヶ丘の吉祥院の桜は井上靖や柳田国男の作品に描かれています。一方、赤川次郎、重松清、中澤日菜子らは多摩ニュータウンの団地を舞台にした作品を書きました。アニメ映画「平成狸合戦ぽんぽこ」も多摩ニュータウンが舞台です。陶芸家・辻清明は連光寺に窯を構え、多くの文化人たちが集まりました。

パルテノン多摩には、古賀猛、中村錦平、深井隆、坂野長行らの作品が設置されました。パーゴラ下のモザイクは、古川清右の作品で、多様なふるさとを持つ人々が集まったニュータウンを象徴して全国の水生动物が描かれました。開館記念イベントでは、キース・ヘリングと多摩市の子どもたちが壁画作品を残しました。

旧多摩聖蹟記念館の明治天皇騎馬像は渡辺長男による作品で、唐木田駅には姪にあたる朝倉響子の作品があります。多摩市では多彩な芸術作品を見ることができます。

(多摩市くらしと文化部文化・生涯学習推進課)



キース・ヘリングと多摩の子どもたちの作品  
「ぼくの街」



日本魚介図譜(パルテノン多摩パーゴラ下) 古川清右作



明治天皇騎馬像(旧多摩聖蹟記念館内) 渡辺長男作



JILL(唐木田駅前) 朝倉響子作

## スポーツ活動

多摩市は市民活動が活発で、市民が主体のまちづくりの中には、人と人をつなぐ「スポーツ」がありました。自然環境豊かで緑の多い公園が数多くあり、さらにその中に身体を動かすスペースや陸上競技場、野球場、球技場など、充実した施設もあり、恵まれた環境にあります。スポーツは自ら「する」だけでなく、「見る」やチームを「支える」など、個々に合う形で関わることもでき、そこから得ることのできる充実感は、「心の健康」にもつながります。多摩市では、市民が自らの意思で主体的にスポー



Jリーグ公式戦 多摩市ホームタウンデー 2020(令和2)年  
「ホームタウンデー」として公式戦での多摩市民優待イベントを開催した。



読売巨人軍による小学校への選手・コーチ派遣  
2020(令和2)年  
読売巨人軍による多摩市内小学校への選手・コーチ派遣。



スポーツ推進委員協議会(ノルディックウォーキング体験教室)  
2020(令和2)年  
スポーツ推進委員協議会と協力し、ノルディックウォーキング体験教室を開催した。

ツをおこなうことを推進し、スポーツを通じたまちづくりへとつながることを目指し、2020(令和2)年に「スポーツ推進計画」をまとめました。計画では、「スポーツで創り出す『みんなが笑顔』でつながるまち多摩」を目標に、「スポーツに触れる／楽しむ／継続する／スポーツライフを創出する／まちづくりへつなげる」の5本の施策の柱を掲げて取り組んでいます。(多摩市くらしと文化部スポーツ振興課)



陸上競技場の様子 2020(令和2)年  
グラウンドを活用したヨガイベントの様子。

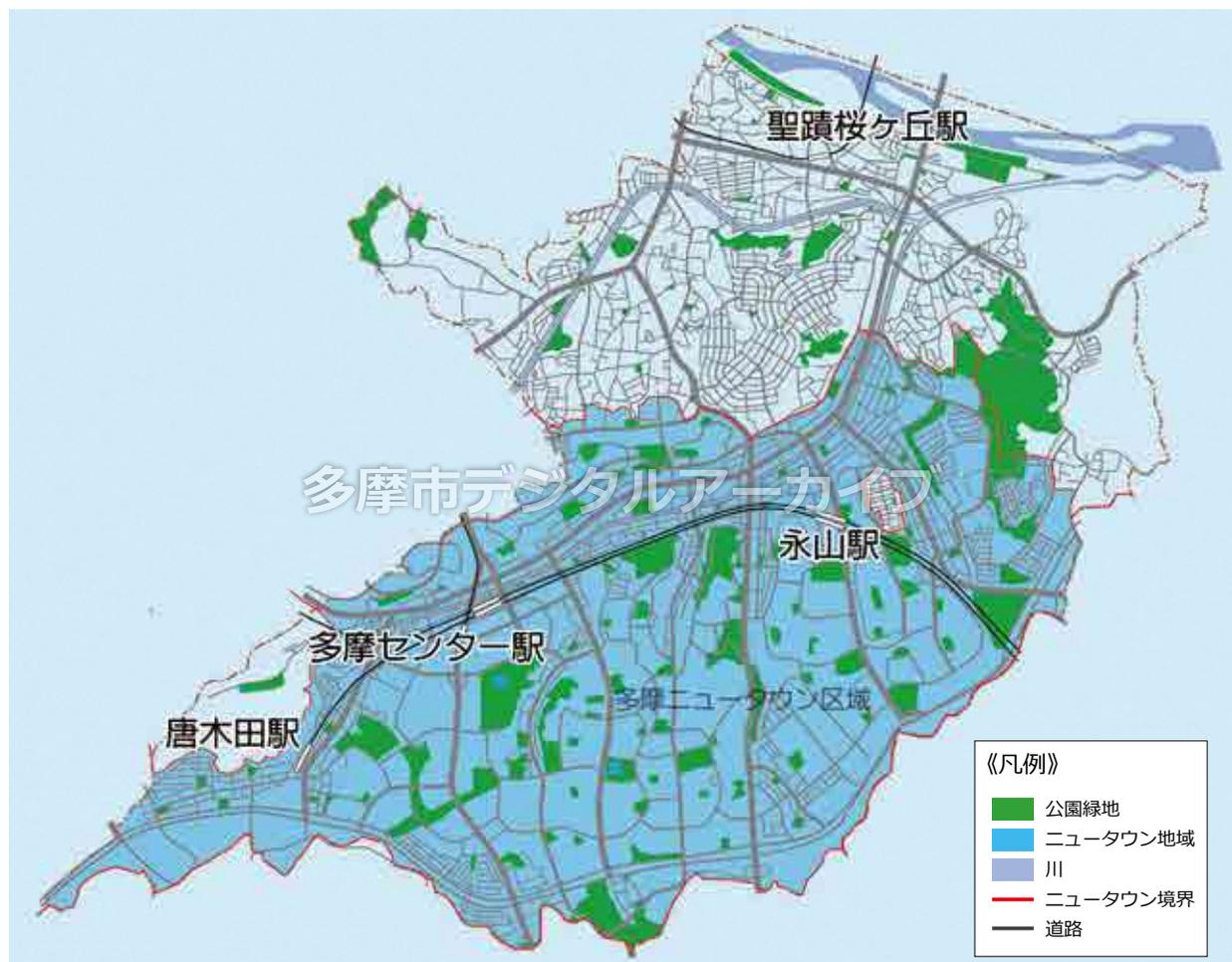


総合体育館(第1スポーツホールの様子) 2018(平成30)年

## 多摩市の見どころ①公園

多摩市域の総面積は約21.01 km<sup>2</sup>で、約6割が多摩ニュータウン区域です。多摩市の公園緑地は、2021（令和3）年4月1日時点で、公園162か所、緑地46か所、合計で約2 km<sup>2</sup>あります。市民一人当たり13.6 m<sup>2</sup>です。多摩ニュータウン区域以外にも大規模な公園として、都立桜ヶ丘公園、原峰公園などが設けられています。また、都市公園面積には含まれないものの、特別緑地保全地区として、霞ヶ関緑地（東京都指定）、和田緑地保全の森（多摩市指定）があります。

1970年代初頭の多摩ニュータウン計画の公園緑地計画では、総合公園の多摩中央公園と、多摩東公園と一本杉公園の2か所の地区公園（後に市では総合公園に分類）、住区内は近隣住区理論に基づき、2か所の近隣公園と7～8か所の街区公園を計画しました。その後1970年代末は公害問題と環境問題が高まり、また自動車の急速な普及による交通事故多発で「交通戦争」と言われる時代でもありました。そこでこれらに対応するため、多摩ニュータウン計画は全域に歩行者・自転車専用道路（遊歩道）の導入を図りました。1980年代に開発された落合・鶴牧地区では、正面に富士山を据えた富士見通りや、奈良原公園から鶴牧東公園に連なる丘のみどりの井桁の骨格空間など「基幹空間」と呼ぶ公園や遊歩道によるみどりの「絵柄」がある街づくりがされました。（大石武朗）



多摩市の公園



**落合・鶴牧地区の基幹空間** 2012(平成24)年8月

落合・鶴牧地区はそれまでの団地づくりを一変して、みどりを骨格とする基幹空間によるまちづくりがされた。



**富士見通り** 1990(平成2)年

正面の富士山まで直線距離で約70km。

**多摩中央公園基本設計**

1977(昭和52)年に実施したコンペで最優秀賞となった株式会社あい造園設計事務所の作品を基に、造園家上野泰氏の協力により、同社が基本設計、実施設計を作成し、1987(昭和62)年10月31日開園した。

